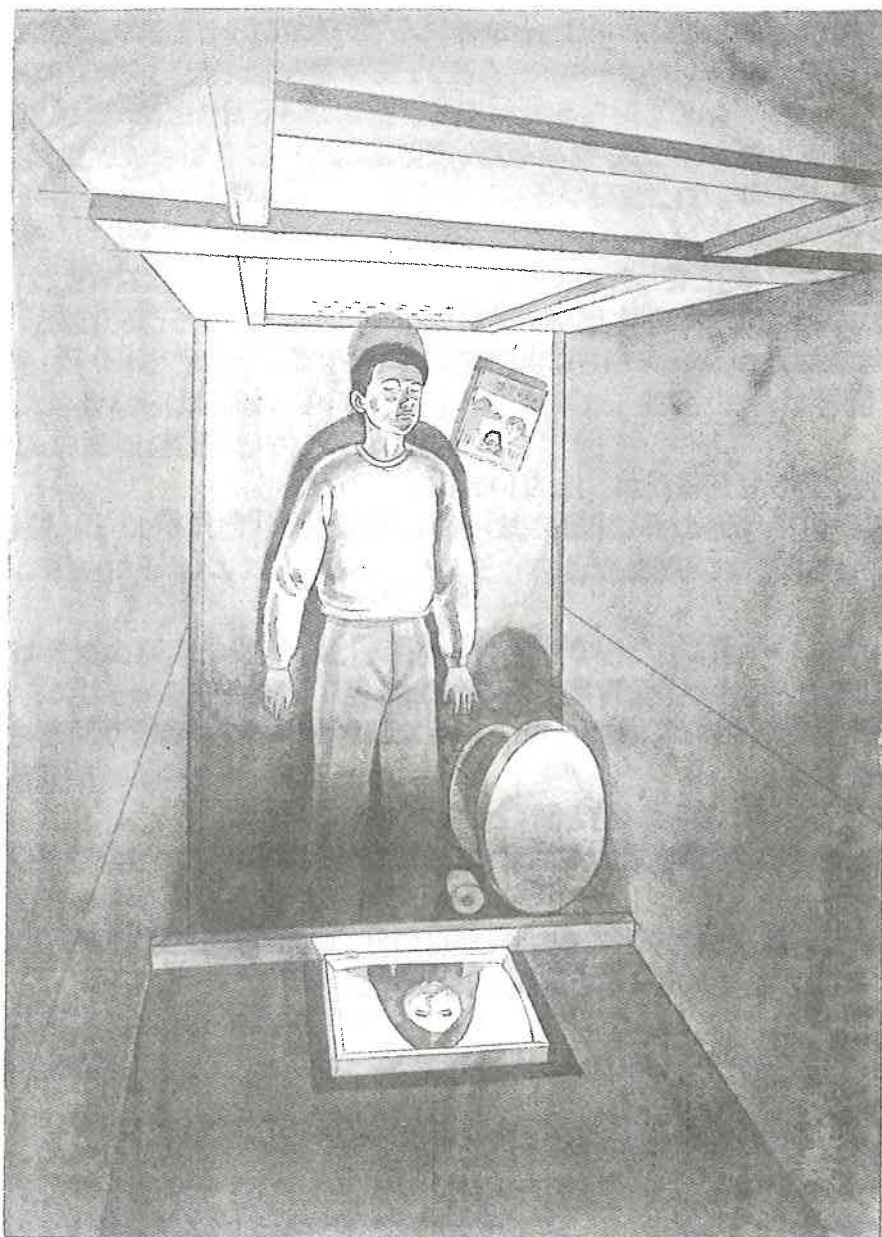


2ページ～ 「最近やっと分ったこと」ー元サマナ、男性

4ページ 被害者は叫ぶ！ フラッシュ 2005.3.19 より

5ページ～ 杉本繁郎被告からの手紙 その3

12ページ 書評「私にとってオウムとは何だったか」



西 鏡小路

最近やっと分かったこと。

最近、子供の発想力に驚かされています。

私の妻は看護学校の教師をしているので、実習の監督時には朝早く家を出ます。その時は当然のことですが、下の子(3歳)が起きた時には、「ママ」はいません。

そのたびに、「ママがいい！ ママがいい！！」

と泣き叫んでいました。

ある日、いつものように下の子が、

「ママがいい！ ママがいい！！」と泣き叫んでいたのを、

抱っこをして外に出ました。

暫くして、泣き止みましたが、物凄く沈んでいました。

子供がふと上を向きました。

すると突然、

「あっ、雲のお月様」と言ったのです。

そこには、真っ白い「朝の月」がありました。

朝の月は空に浮かぶ雲の白さによく似ていたのです。

私は、

「そうだね、雲のお月様だね。」と言いました。

それから下の子は朝の月は「雲のお月様」、夜の月は「お月様」

と言い分けるようになりました。

又別の日のことですが、保育園でのことです。

最近朝はめちゃくちゃ寒いですが、朝バケツに氷が張っていたそうです。

そこで、先生が、

「氷が溶けると何になるの？」と聞くと、

「溶けると黄色いちようちよになるの。」と答えたそうです。

子供発想力と言うのは本当に先入観がない分、面白くまた、豊かです。

そして、子供の成長を見守ると言うことはとても「幸せ」なんだということ。

最近特に思うことは、

「解脱や悟りといったこと(出世間)と、世俗のこと(世間)と

いう区別に何か意味があるのだろうか？」

と言うことです。

私はいまだに修行をしていますし、解脱や悟りについて興味が無くなった訳でも、諦めたわけでもありません。

密教ではよく

「煩惱即菩提」「生死(輪廻の中で生まれ変わり、死に変わりをすること)即涅槃」と言うことを言います。

これを「オウム」は悪用して「御都合主義的」に使ったわけです。

しかし、本来は

「全ては変化してしまうものである」それ故に「一切に実体がない。」

実体がないならばそれは「一切が空」である。

(「仏の智慧・慈悲と言うものは空である」と言う前提がある)

ならば「空であればそこには必ず智慧・慈悲がある。」

空の状態でしかも智慧と慈悲が備わっているならばそれは、必ず「仏」である。

それには、例外はありません。

私だろうと誰だろうと関係ありません。この世に存在する全ての構成物がそうです。

生物ならば「仏」と呼ばれ、意味のある音ならば、「仏の説法」と呼ばれ、

意味のない音ならば「マントラ・ダーラニー」と呼ばれ、空間・土地は仏国土、

建物は仏の居城(宮殿)と呼ばれるのです。

それ(解脱・悟り)とこれ(今抱えている現実の煩惱)とに違いを認めるとすると、

私たちは永遠にそれには近づけません。だって違うものなのですから。

私たちは全ての瞬間に「それ」と「これ」の差異がないことに気づくことが必要なのです。このことが前提になって前述の、

「煩惱即菩提」「生死(輪廻の中で生まれ変わり、死に変わりをすること)即涅槃」

と言う言葉があるのです。

だから「穢土(えど／汚いこの世俗世界)」から離れて「出家」をして、

聖なる世界へわざわざ行く必要はありません。

だってここが既に「極楽浄土」そのものなのですから。

差異をつけるのは私たちの心です。

先入観さえがなければ、一切は純粋な現われとして見えるのです。

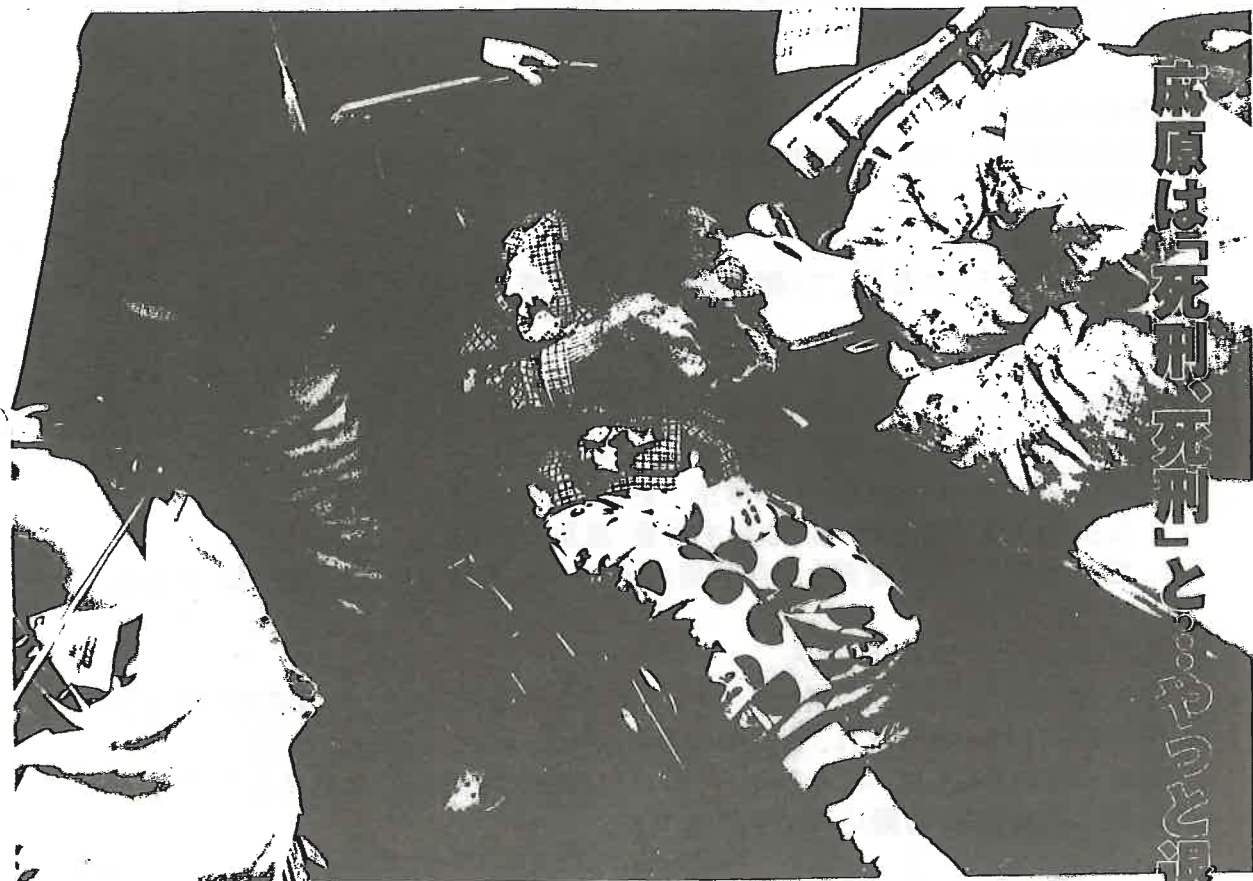
だからこそ、今この現実の世界を大切に生きることこそが必要なのです。

だから私は今ある幸せをないがしろにはしません。

これもそれも私にとっては変わりがないですから。

永岡辰哉

麻原は「死刑、死刑」と。やっと退院できた被害者は叫ぶ！



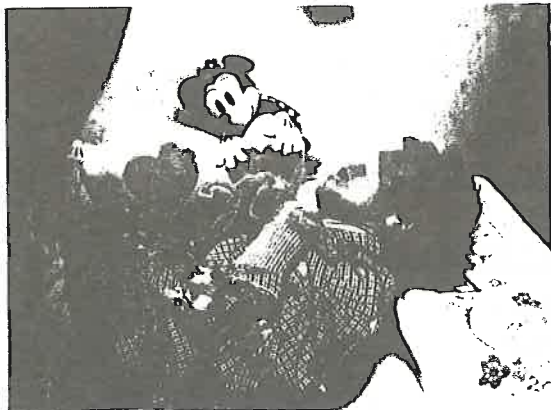
31歳のときに地下鉄サリン事件の被害に遭ったSさん。調理の姉(左)とともに懸命のリハビリを続けている。藤井フミヤのファンで、よくCDを聞いているという

サリン事件では、一命を取り止めたものの重い後遺症に苦しむ人がある。95年3月20日朝、大手スーパーで働くSさん(41)は、義姉Iさん(44)と地下鉄千代田線に乗り込んだ。義姉は日比谷駅で降り、Sさんは鎌ヶ岡駅で丸ノ内線に乗り換えた。新人研修の指導をおこなうためにいつもとは違う場所に向かったのだ。その丸ノ内線車内でサリンを吸い込んだのだ。

Sさんは東京医大病院に抱き込まれた。「脳が腫れ上がった状態でした。足はマヒし、肺から出血していて呼吸できなかったため人工呼吸器をつけられ、透析もしていました。お化粧が残っていたので、顔色だけ見るとそれほど悪い状態だとは思いませんでした」(Iさん)。ここから本人と家族の壮絶な闘いが始まった。サリンの症例などなく、治療方法は不明。1カ月たっても脳の腫れは引かなかった。「脳に障害が残って、寝たきりになると宣告されました。言葉も話せず、手足はマヒしたままだった。彼女は障害者1級と認定された。

それから10年。Sさんは懸命にリハビリを続けてきた。「本人はもとともまじめな性格で、普通なら首を上げてしまいうりハビリを頑張っていました。見舞いに来る人のことを思いやる優しさも持っています」(Iさん)。その甲斐あって、体の右側が動くようになり、わずかが言葉が出てくるようになった。「車椅子に座れるとは思っていませんでした。すごいことですね」(Iさん)。匂いや味、寒さ、暖かさもわかるようになっていた。ただ、目は当初より悪化して、

顔などを掻いてしまうため、普段は手袋をしている



ほとんど見えなくなった。明るいか暗いか程度しかわからない。ようやく病院を退院したのは、一年半前。現在はIさんの家族と暮らし、介護はIさん家族とヘルパーが交代で受け持っている。

Sさんは言葉を理解し、質問を受け止めてくれる。また、ひょうきんな一面も持っていた。しかし、麻原について聞くと「死刑、死刑」と絞り出すような声で怒るのだった。

Sさんに対して、労災と障害者年金は支給されたが、国の補償はないままだ。教団からは2回ほど送金されてきたが、謝罪に来たことはないという。

「オウム自体がまだ存在してるでしょう。悔しいです。犯人から謝罪の手紙を出したいという話もききましたが、読むつもりはありません」とIさんはきっぱり言った。彼女たちの闘いは、終わることがない。

2005.3.19 75422 84

FUJITSUBO

OBJSJ.1777

09/15/2010

CO
N

21

ELI LILLY, INC.

[illegible][illegible]

FUJITSUBAO

[illegible]

一、 π 的初等函数表示法

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

— 11 —

>早川 紀代秀 (著), 川村 邦光 (著)

>ポプラ社 1680円

うーん、うーん、早川被告の文章は貴重。私であつても知らないエピソードもあつた。たとえば、波野村の事件で逮捕起訴されて後、保釈制限によりしばらく実家にいたのたがその時の心情、石垣島セミナーの後自分たちでのオウムの船を操縦し本土に戻つたこと、エリツインにもう少しで会えただろうことなど。

直接関与した事件関係について細かく書いてないことに不満を感じる読者もいようが、それは朝日文庫の降幡さんの本など読めば法廷証言で多くでているから、良しとしよう。

早川被告については、影の指揮者などとマスメディアは言いたがつた。私は、いや、単なる宗教好き、精神世界好きのおじさんなんです(失礼)、と何度も言つたが容易に理解してもらえなかつた。

法廷証言をちゃんと聞いていれば分かつただろうが、フォローしている人もそうはいない。

早川被告は、未だ宗教好きである。井上被告で一審判決のように「宗教に逃げることなく」という説示がされなかつた早川被告であり、これが限度なのかもしれない。

「冥福を祈る」という発想を持つこと自体、被害者・遺族は許せない気持ちなのだから。吉村昭とか藤沢周平とか、読んで欲しいなあと思う。

川村氏の文章は、失礼ながらなつていないものだった。

1 最初の方の戦前の宗教弾圧の歴史の所など、オウム捜査をそれと同じ要素を持つというやうな、中京大学の池田昭教授の妄言と同かと思つたら、違ふ。何のために書いたのかよく分からん。

2 戦時体制での国民思想また、伝統仏教とくに日蓮主義の極端な利用が戦時体制に果たした役割を書くのかと思えば、まとまりがないまま。

書くならば、戦時体制で伝統仏教は「慈悲の殺人は菩薩の万行にまさる」とも言つた、ヴァジラヤーナ思想そのものである、とのみいい。

3 文意があちこちにとんでおり、また麻原彰晃説法や早川ら証言の焼き直しの部分が多い。

何を伝えようかまとまらないまま、または十分に考えない間に原稿用紙を稼いだ文章という感じを受ける。いかに論文ではないとしても、読者をバカにしているなあと思つた。

参考にすべき書籍ではあります。

<http://www.cnet-sc.ne.jp/canarium/>

かなりや

西條 八十

唄を忘れた金糸雀は、
後の山に棄てましょか
いえ、いえ、それはなりませぬ
唄を忘れた金糸雀は、
背戸の小藪に埋けましょか
いえ、いえ、それはなりませぬ
唄を忘れた金糸雀は、
柳の鞭でぶちましょか
いえ、いえ、それはかわいそう
唄を忘れた金糸雀は、
象牙の船に、銀の櫂
月夜の海に浮べれば
忘れた唄をおもいだす

『赤い鳥』(大正七年二月号)
岩波文庫「日本童謡集」より

◎ カナリヤは歌を思い
出す手助けをする。

◎ カナリヤは自分で自
分の歌(考え)を歌う。

◎ カナリヤは歌を歌え
なくなつた鳥を捨てる
のではなく、温かく見
守る。

(地球の揺りかごで)